

学びの広場

教育委員会表彰と

生涯学習推進大会を開催

2月2日(土)、町民文化センター展示ホールで134人の参加を得て楽しく和やかな中で開催されました。



教育委員会表彰

多年にわたり、松田町の教育の振興と発展に寄与された11人の方々に、その功績をたたえ、賞状と記念品の贈呈がありました。



上段左から 中村、川村、吉岡、二宮
下段左から 安藤、鍵和田、草野、北村の各受賞者(敬称略)

生涯学習推進大会

(1) 活動発表

「コーロ・しるふれい」

活動発表は、公民館登録団体で女性合唱団「コーロ・しるふれい」の皆さんが、「楽しく和やかに、良いハーモニーをめざして」をテーマに、さわやかな歌声を会場いっぱい響かせました。

コーロ・しるふれいは平成7年に結成され、メンバーは30歳代～80歳代と幅広く22人が在籍しています。当日は次の3曲を歌っていただきました。

- 青い眼の人形
- 三地方の子守歌
- 寂庵の祈り・ある真夜中に



会場に響き渡ったコーロ・しるふれいのハーモニー

(2) 講演 「生涯学習のこれまで・これから」

講演は、神奈川県社会教育委員連絡協議会会長、青山学院大学教授の鈴木眞理(まこと)先生から、「生涯学習のこれまで・これから」を演題にお話をいただきました。主な内容を紹介します。

① はじめに

数年前、事業仕分けが行われた際に、生涯学習施設である、国立女性会館や国立青年の家について「昭和35年からやっていて成果は出ているのか」「まだやるのか」「いらぬのではないのか」と質問があった。これは、学校に置き換えると分かりやすい。「学校は明治の時代からあるのに、まだ成果は出ているのか」「まだやるのか」という問いが、学校に置き換えると分かりやすい。



山学院大学教授 鈴木眞理(まこと)氏
講師の青眞(まこと)氏

これらにプラスして「お茶を飲んだり」「友達ができる」という楽しさがある。

④ 生涯学習社会の考え方

「学歴社会」の対比として「生涯学習社会」という言葉(考え方)が到達目標として出てきた。

「生涯学習社会」は、学習の選択の機会が与えられ、学んだ成果が適切に評価される社会。「学歴社会」は一発勝負の社会。「生涯学習社会」は敗者復活戦の社会(再チャレンジできる社会)といえる。

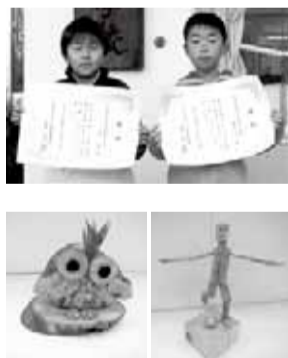
⑤ おわりに

教育というと学校教育に限定して考えがちであるが、生涯学習を支援する社会教育は、行政の責任で実施していかなければいけない。

各種コンクール入賞

《県産木材工コンクール》

入賞
満岡祐太さん(寄小3年) 右側
「がんばったサッカー」
中嶋一瑛さん(寄小3年) 左側
「ポップポぷくろう」



《命の大切さ作文コンクール》

○ 県教育長賞「命の大切さ」
桐生かのんさん(寄中3年) 上段左
○ 神奈川新聞社賞「命の授業」
熊澤朱音さん(寄中3年) 下段左
○ 県警警務部長賞
「命ってなんだろう?」
上田梨奈さん(寄中3年) 上段右
○ 県警交通部長賞「命の大切さ」
松島郁弥君(寄中2年) 下段右



ふでこぶか 筆子塚

日本は明治維新の近代化以降、たちまちのうちに世界の列強国に名を連ね、また現代に至っては、世界有数の経済大国となりました。それはただ単に、日本人が勤勉で優秀な民族であったなどの理由だけではなく、

屋は全国的に設けられました(多くは各地の寺院内に設置)。神奈川県内には五百四十カ所、小田原、足柄上郡では八十二カ所ありました。寺子屋の先生は師匠(八割方は僧侶)と呼ばれました。この師匠の恩に報いる供養塔として筆子(生徒)たちが後に成人して資金を出し合って建立したものを筆子塚といいます。

松田の文化財探訪

「歴史的石造物」その8 町文化財保護委員 平賀康雄



大蔵院の筆子塚

ません。その最大の理由は、古い時代から日本人全体の教育程度が文明国と言われる欧米諸国と比較しても、さらに秀でていたからというのが通説です。具体的にいえば、いわゆる「寺子屋」という民間教育機関がその立役者といえます。

す。場所的には、圧倒的に寺の墓地に多く建立されています。ごく一般的な型の筆子塚は、無縫塔または卵塔と言って頭が卵の形(僧侶の頭の形)をしています。

当町においては、惣領の延命寺、庶子の宝寿院、大蔵院、寄の福昌院にそれぞれ数基の筆子塚があります。